

講師のプロフィール

くま がい 熊谷カネ



北海道様似郡様似町生まれ。
アイヌが多く居住する岡田コタンで、熊射ちでありカムイノミの伝承者であった父・岡本総吉、歌謡や口承文芸の伝承者として活躍した母・岡本ゆみの末娘として生まれ育つ。
1965(昭和40)年に結成された北海道ウタリ協会様似支部には発足時から参加し、特に1983(昭和58)年に発足した文化保存部(様似民族文化保存会の前身)で長年アイヌ文化の伝承活動に取り組み、現在は様似民族文化保存会会長を務める。
1997(平成9)年より様似アイヌ語教室の運営に携わり、講師も務める。2002(平成14)年にはアイヌ語弁論大会で最優秀賞を受賞し、現在は審査員を務める。その他、各地で講演を行っている。

協力者の紹介

おお の てつ ひと
大野徹人 様似町ウタリ生活相談員。このテキストの原稿執筆を担当。

なか がわ ひろし
中川裕 千葉大学文学部教授。このテキスト作成にあたって助言。

【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

このテキストでは、様似地域で話されてきたアイヌ語(様似方言)を勉強します。
このテキストの内容は、これまでの研究者・放送局による記録・研究、様似民族文化保存会・様似アイヌ語教室での調査・学習に基づいて、講師と相談しながら作ったものです。詳しいことについては32ページをご覧ください。
また、このテキストでのアイヌ語のカタカナ表記は、『アコロイタク』(北海道ウタリ協会、1994)の表記にほぼ従っていますが、小さなラリルレロ(音節末子音のr)のうち、イ段の「リ」以外のものは、様似方言で実際に聞かれる発音の傾向を考慮して、一つの試みとしてすべて統一的に「ル」としてあります。
ローマ字表記については、アイヌ語は『アコロイタク』に準じ、日本語からそのまま取り入れた言葉は社団法人日本ローマ字会の定めた表記で、英語などから日本語に入って使われている外来語はもとのローマ字の綴りで表記しています。

【様似アイヌ語教室について】

様似アイヌ語教室は、毎月第2・4金曜日に北海道ウタリ協会様似支部(様似町総合福祉センター内、東様似生活館2階)で行われています。お問い合わせは以下の連絡先をお願いします。

北海道ウタリ協会様似支部

〒058-0014 北海道様似郡様似町大通2丁目 TEL 0146-36-5656

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	Lesson	テ - マ	ページ
7月	2日	14	「～に、～へ」の言い方	4
	9日	15	「～から」の言い方	6
	16日	16	「私は～だ」の言い方	8
	23日	17	「あなたの～」の言い方	10
	30日	18	「あなたの～」の言い方 その2	12
8月	6日	19	「あなたが～する」の言い方	14
	13日	20	「私」を指す言葉	16
	20日	21	「私」を指す言葉 その2	18
	27日	22	「あなた」を指す言葉	20
9月	3日	23	「～して～する」の言い方	22
	10日	24	「～して～する」の言い方 その2	24
	17日	25	命令の言い方	26
	24日	26	否定の言い方	28

例文

1 クコル アチャ インド エン オマン。
 ku=kor aca INDO en oman.
 私の 父 インド に 行く (私の父はインドに行く。)

2 ペツ オシケ エン チカプ アフン。
 pet oske en cikap ahun.
 川 中 に 鳥 入る (川の中に鳥が入る。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アチャ	aca	お父さん、父。
アフン	ahun	入る。
インド	INDO	インド。日本語に入った外来語をそのまま使ってます。
エン	en	～に、～へ。
オシケ	oske	中。
オマン	oman	行く。
ク	ku=	私が。
コル	kor	～を持つ。～の。
チカプ	cikap	鳥。
ペツ	pet	川。

言葉の解説

この課では「エン」というレッスン13で勉強した「タ(～で)」に近い意味の言葉を勉強します。この「エン」は日本語の「～に」や「～へ」にあたる言葉で「行く」、「来る」、「登る」など、移動を表す時の目的地点を示すために使います。

日本語で「学校に行く」と言っても「学校へ行く」と言っても同じような意味をあらわすように、アイヌ語でも「エン」の代わりに「タ」を使えますが、移動を表す時は「エン」を使うことが多いようです。

また、日本語では話し言葉で「学校行った」、「札幌行く」というように「に」や「へ」を略すことができますが、アイヌ語では「エン」を省略することはできません。

- サッポロ エン クオマン
- × サッポロ クオマン

なお、この「エン」は、様似を含む日高東部の地域や十勝などで使いますが、その他の地方では「ウン」、「エネ」、「エコタ」などを使います。

注意すべき発音

「チカプ」の小さい「プ」の発音は難しいので繰り返し練習してみましょう。

例 チブ 舟 セブ 広い ポブテ 沸かす アブカシ 歩く
 シリカプ かじき イトゥンナブ あり タブカル 踏舞 タブコブ たんこぶ山

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 昨日おばは十勝に行った。()()()()()。

- エン en ～に
- オマン oman 行く
- ヌマン numan 昨日
- ウナルペ unarpe おば
- トカプチ Tokapci 十勝

2 私は山の上にのぼる。()()()()。

- ク ku= 私が
- カ ka 上
- リキン rikin のぼる
- ヌプリ nupuri 山
- エン en ～に

MEMO

様似のアイヌ文化 — イカタイ —

テキストVol.1では「様似とアイヌ民族」と題して様似の風土や歴史、伝説について紹介しましたが、このテキストVol.2では、様似を中心にアイヌ文化・アイヌ語のさまざまなトピックを紹介します。

アイヌ語に日本語の「こんにちは」に相当する挨拶言葉はありませんでした。現在「イランカラプテ」という挨拶言葉が広く知られていますが、これも北海道のすべての地域で使われていたわけではありません。様似でもこの挨拶言葉は使われていなかったようです。

この講座のはじめに「イカタイ」という言葉で挨拶していますが、様似では「久しぶり」という意味のこの言葉が挨拶言葉としてよく使われていました。この言葉は日高東部の地域や道東の釧路、美幌などで使われていました。

この「イカタイ」という言葉はもともと「珍しい」という意味だったようです。

例文

1 ヌプルベツ ワ クエク。
 Nupurpet wa ku=ek.
 登別 〜から 私・来た (私は登別から来た。)

2 ニ カ ワ りんご トウイ。
 ni ka wa RINGO tuy.
 木 上 〜から りんご 落ちる (木の上からりんごが落ちた。)

単語

アイヌ語		日本語訳
エク	ek	来る。
カ	ka	上。
ク	ku=	私が。
トウイ	tuy	落ちる。「切れる」、雨などが「やむ」という意味もあります。
ニ	ni	木。
ヌプルベツ	Nupurpet	登別。ヌプル=色が濃い、ベツ=川。石灰質の温泉が川に流れ込んで水が濁っていることからこの名前がついたようです。
りんご	RINGO	りんご。日本語をそのまま使っています。
ワ	wa	〜から。

言葉の解説

この課では、「〜から」という意味の「ワ」という言葉を勉強します。レッスン13・14で勉強した「タ」、「エン」の仲間、日本語の「てにをは」にあたる言葉です。よく使う言葉なのでしっかり覚えてください。

注意すべき発音

「ヌプルベツ」の発音は難しいので何度も練習してください。特に最後の小さい「ッ」の発音に注意してください。「ヌプルベツ」になってはいけません。

小さい「ッ」の発音は難しいので、今回もいくつかの例を練習してみましょう。

例	コツ	跡・くほみ	ハツ	山ぶどう	ニサツ	夜明け
	オオワツ	かえる	ポロベツ	幌別(地名)	フツネ	狭い
	マツネシリ	雌山	シンリツ	根・先祖	アベソコツ	いろり

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 私は静内から来た。()()()。
 ワ wa 〜から エク ek 来る
 シピチャル Sipicar 静内 ク ku= 私が

2 家の中からおじさんが出てきた。()()()()()。
 ソイネ soyne 外に出る オシケ oske 中
 チセ cise 家 アチャポ acapo おじさん
 ワ wa 〜から

類似のアイヌ文化 — トウレブ(ウバユリ) —

ウバユリはその名の通りユリの仲間です。北海道弁ではなまって「ウンバイロ」とも言います。厳密には本州・四国・九州に生える通常のウバユリより大型の種類で「オオウバユリ」または「エゾウバユリ」というのが正式名称です。昔アイヌが利用していた植物として非常に有名です。

6～7月の間に、大きくなった球根から澱粉をとります。俗に、花の咲く雄と花の咲かない雌があり、澱粉をとるのは雌の方だと言いますが、実際は雄株・雌株に分かれているわけではありません。ウバユリは8年程度かけて成長し花を咲かせ種を散らすと枯れてしまいます。その頃になると花を咲かせるため球根の栄養を使い果たしてしまうので球根を食べられないのです。

ウバユリの加工法は地方・個人によって異なりますが、ここでは岡本ゆみさんの伝承していた方法をご紹介します。ウバユリの球根は、掘ったあと十分に洗い食べられない外側の皮をむいて、内側の真っ白い鱗片を白でつきます。つぶしたウバユリはざるでこし、樽などの入れ物で受け、そこに水を入れます。ざるでこす前にフキの葉で包んで4、5日寝かすこともあったようです。そうするとウバユリが発酵し澱粉がとれやすくなるようです。

水を張ってしばらく置くと澱粉質と繊維質に分離します。上に浮いた繊維質・あくを捨てると樽の底に澱粉質がたまっています。その澱粉質は、上質の白い澱粉質(一番粉)が一番下にたまり、その上に色の黒っぽい、繊維の混ざった澱粉質(二番粉)がたまっています。二層に分かれた澱粉質は分けてそれぞれ乾燥させます。この澱粉をイルプと言います。一番粉はお腹をこわした時などに薬として飲み、二番粉はさまざまな料理に使います。

澱粉を絞って残った繊維は寝かしたあと円盤状に形を整えて乾燥させてこれもおかゆなどの料理に使います。また、ウバユリの球根はそのまま焼いたり、鱗片をばらして焼いてもイモの風味に似た甘い味がしておいしく食べられます。

かつては馬車に積んで運ぶほどのたくさんのウバユリをとって保存していたそうです。岡本ゆみさんは、ウバユリをとり終えたあと、球根および茎(この部分からも澱粉がとれます)をのぞいた残りの葉っぱをその場に撒きながら「トウレブサル アシ ナンコン ナ《ウバユリの原っぱができるように》」と言って、収穫に感謝し来年も同じようにウバユリがたくさん生えてくるようお願いをかけていました。トウレブサルのサルという言葉は、「アシ原」という意味もありますが、アシに限らず植物の群生している「原っぱ・林」の意味もあります。たとえばトブサル(トブ=竹)ですと「竹林」の意味になります。

練習問題の解答 1. アマツ ウチルベ トカチ エン オマツ numan unarpe Tokapci en oman 2. マリ カ エン クリキン nupuri ka en ku=rikin

例文

1 ウェンクル クネ。
 wenkur ku=ne.
 貧乏人 私・だ (私は貧乏人だ。)

2 オンネ エカシ クネ。
 onne ekasi ku=ne.
 年老いた おじいさん 私・だ (私は年老いたおじいさんだ。)

単語

アイヌ語	日本語訳
ウェンクル wenkur	貧乏人。ウェン=(暮らしぶりが)悪い、クル=人。
エカシ ekasi	おじいさん。
オンネ onne	年老いた。
ク ku=	私が。
ネ ne	〜だ、〜である。

言葉の解説

レッスン7で「私が〜する」の言い方を習い、レッスン11で「AはBだ」の言い方を勉強しましたが、この課ではその2つを組み合わせた「〜クネ」の言い方を勉強します。この「〜クネ」の言い方は非常によく使います。

以前勉強した「遊ぶ」、「歩く」、「飲む」などと同じく、「ク」と「〜だ、〜である」という意味の「ネ」を離してはいけません。例えば例文の「ウェンクル クネ」を「ク ウェンクル ネ」というようにはできないので注意してください。

注意すべき発音

「ウエ」は「ウエ」ではなく、ウとエをほぼ同時に言うような気持ちで発音してください。ウを言いかけてすぐさまエと言う感じです。

例 ウェン 悪い ハウエ 声 ルウエ 跡・こと ウエンテ 荒らす
 ウウエカルバ 集まる

「クネ」のアクセントにも気をつけてください。クネではなくクネとなります。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 私は女だ。()()。
 ネ ne ~だ
 ク ku= 私は
 メノコ menoko 女
- 2 私は室蘭から来た大学生だ。()()()()。
 エク ek 来る
 ネ ne ~だ
 モルラン Moruran 室蘭
 大学生 DAIGAKUSEI 大学生
 ワ wa ~から
 ク ku= 私は

類似のアイヌ文化 — コンブ(昆布) —

アイヌ語で昆布のことをコンブまたはコンブと言います。アイヌ語では音が濁っても濁らなくても意味は同じです。この昆布はアイヌ語がもとで、アイヌ語から日本語に入った言葉であると言われますが、中国伝来の漢語がもとでそれが日本語に入ったという説もあります(9世紀の文献に「綸布」についての記述があります)。また、アイヌ語で昆布のことを「サシ」とも言い、サシにちなんだ地名もあります。もしかしたらサシの方がもとのアイヌ語で、コンブは漢語がアイヌ語に入ったものかもしれません。いずれにせよ、現在、北海道の多くの地方では昆布のことをアイヌ語でコンブまたはコンブと呼んでいます。

8世紀に著された『続日本紀』に東北の蝦夷(エミシ)が昆布を朝廷に献上していたという記述があり、古い時代から昆布が西日本に輸出されていたことがわかります。現在でも日高産の昆布は非常に有名で特に三石産が有名です。類似では冬島という地域とれるものが「冬島昆布」というブランド名で有名になっています。昆布焼酎や昆布醤油、ようかんなどさまざまな製品が作られており、最近ではドレッシングも開発されています。「日高昆布」のブランド名で出荷されている昆布の中には類似産のものも含まれていますので、皆さんが普段食べている昆布の中にも類似から届いたものも含まれているかもしれません。昆布を食べながら類似のことをちょっと思い起こしていただけたらと思います。

昆布は磯に根を張って成長します。この昆布を磯舟の上からカギで引っ掛け引き抜きます。こうして採った昆布を「採り昆布」と言います。昆布採りは一年中行われるものではなく、大体7月中旬から9月下旬あたりとシーズンが決まっています。また、波の影響で抜けたり途中で切れて浜に寄り上がる昆布があります。これは「寄り昆布」と言って、一年中採ることができます。

江戸時代に十勝から日高を歩き、当時のアイヌの生活の様子を描き残した絵師、平沢屏山の絵に、アイヌが舟に乗り、昆布を木のカギに引っ掛けてとっている光景や浜で昆布を干している光景があります。もしかしたら彼の描き残した絵の中に類似で描かれたものもあるかもしれません。

練習問題の解答 1. シレチヤル ヲ ケシク シピカル ワ ク=エク 2. チセ オシケ ヲ アチヤボ ヲ イナセ オシセ オシケ ワ アカポ ソイネ

例文

1 エエトウ ポロ。
 e=etu poro.
 あなた・鼻 大きい (あなたの鼻は大きい。)

2 エチセ クヌカル。
 e=cise ku=nukar.
 あなた・家 私・見る (あなたの家を私は見る。)

単語

アイヌ語		日本語訳
エ	e=	あなたの。
エトウ	etu	鼻。
ク	ku=	私が。
チセ	cise	家。
ヌカル	nukar	～を見る。
ポロ	poro	大きい。

言葉の解説

レッスン5で「私の」という意味の「ク」という言葉を勉強しましたが、ここでは「あなた」、「お前」という意味の「エ」という言葉(人称接辞)を勉強します。日本語では「あなた」、「お前」、「あんた」、「君」など、自分が話しかけている相手を指す言い方がいくつもありますが、アイヌ語では2つしかありません。

今回勉強する「エ」という言葉は、比較的立場の近い人や目下の人に使う基本的な言い方です。日本語にすると「あなた」、「お前」、「君」ぐらいの意味になります。

もう一つ、相手に敬意を表する時に使う別の言い方もありますが、まずこちらを先に覚えてください。

注意すべき発音

「トゥ」は「ド」や「ツ」と書かれることもあります。日本語にはない発音ですが、「トゥデイ」、「トゥナイト」など、英語などの外国語の中に出てくる発音なので耳にする機会の多い発音です。しかし、ちょっと難しいので何度も練習してください。「ト」にならないように気をつけてください。

例 アトウイ 海 エトウ 鼻 トウイマ 遠い トウシ 綱
 トウブ ニツ トウク 育つ・出る トウカル あざらし トウルセ 転ぶ・落ちる
 ちなみに「エトピリカ」という、くちばしが鮮やかな赤色の鳥がいますが、もとのアイヌ語では「エトウピリカ」となります(この場合の「エトウ」はくちばしの意味です)。

例文1の「エエトウ」は「エートウ」にならないように気をつけてください。「エ・エトウ」のように最初の「エ」と2番目の「エ」を心もち区切るように発音してください。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 あなたの髪は白い。()()。

- エトピ etopi 髪
- レタル retar 白い
- エ e= あなたの

2 あなたの靴を私は洗う。()()。

- エ e= あなたの
- フライエ huraye 洗う
- ケリ keru 靴
- ク ku= 私は

MEMO

類似のアイヌ文化 — コンピシト(昆布の団子) —


前回、昆布とアイヌの関わりについて触れましたが、今回は類似の伝統的なアイヌ料理コンピシト【写真】を紹介します。コンピシトは、ゆでた団子に昆布で作ったたれをまぶしたものです。

シトというのは団子のことで、アワやヒエ、米などの穀物を臼でついて粉にしたもので作るのが伝統的な方法ですが、現在は手に入りやすい上新粉や白玉粉を使うことが多いです。

たれの作り方は、まず、昆布を油で揚げてパリパリの状態にします。かつては炉の火やストーブであぶって焼いたそうです。それを手で何度も割って粉々に砕き、その粉々になった昆布を鍋で煮詰めて作ります。この時に砂糖を入れて甘みを出します。

このコンピシトは、もともと、類似や浦河など日高でも昆布の豊富にとれる沿岸地域独特の料理でしたが、現在は各地で作られているようです。

なお、シトは地方によってさまざまなものを作られていました。たとえばサケの卵(筋子)をまぶしたチボルシトや、キハダ(シコロ)の実を煮詰めて作ったたれをまぶしたシケルペシト、ヨモギの葉を入れて作るノヤシト、ドングリを使ったニセウシトなども作られたようです。またイモシトといって、イモを凍らせて発酵させて作る団子(しばれイモ)もありました。



コンピシト

例文

- 1 ウポポ エイエ。
 upopo e=ye.
 歌 あなた・言う(歌う) (あなたは歌を歌う。)
-
- 2 ピリカ 車 エコル。
 pirka KURUMA e=kor.
 いい 車 あなた・持つ (いい車をあなたは持っている。)

単語

アイヌ語	日本語訳
イエ ye	〜を言う。歌を「歌う」という時にも使います。
ウポポ upopo	歌。
エ e=	あなたが。
車 KURUMA	車。日本語をそのまま使っています。
コル kor	〜を持つ。
ピリカ pirka	いい、きれい。

言葉の解説

レッスン17・18で習った「あなたの〜」の意味の「エ」は、「私が」の意味の「ク」と同じように「あなたが〜する」という時にも使います。
 「ウポポ エイエ」を「エ ウポポ イエ」とは言いませんし、「ピリカ 車 エコル」を「エ ピリカ 車 コル」というのも間違った言い方ですので気をつけてください。

注意すべき発音

「イエ」はちょっと難しいかもしれません。「イ」を軽く、短く言い、それに続いて「エ」を言うような気持ちで発音してみてください。「イエ」にならないように気をつけてください。

例 **パイエ** 行く(複数形) **カイエ** 折る **ヌイエ** 彫る・書く **トウイエ** 切る
 なお、様似方言ではイエが、エに近く発音されることもままあるようです。

例 **パイエ** → **パエ**

ウポポはウを低く **ポポ** と発音してください。 **ウ** **ポポ** ではありません。

エイエ・エコルはそれぞれ **イエ**、**コル** というアクセントになりますので気をつけてください。
エ、**エ**

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 大きな山をあなたは見る。() () () ()。
 ヌカル nukar 見る
 ヌプリ nupuri 山
 エ e= あなたは
 ポロ poro 大きい
- 2 明日あなたはロンドンに着く。() () () () () ()。
 エ e= あなたは
 ニサッタ nisatta 明日
 ロンドン LONDON ロンドン
 タ ta 〜に
 シレパ sirepa 着く

様似のアイヌ文化 — リムセ(踊り) —

アイヌ古式舞踊は北海道内各地域で伝承されていますが、様似でも独自の踊りが伝承されています。

北海道内の多くの地域で踊りのことを「リムセ」と言いますが、平取・門別・鶴川・千歳などでは「ホリピ」、「ホリッパ」とも言っています。


様似で伝承されている踊りはいろいろありますが、鶴の踊り【写真】や燕の踊りなど鳥の動きを模したものの、雪が風に舞い、雪の重みで木の枝がたわむ光景を踊りにしたものの、イヨマンテ(熊送り)の際に踊られる輪踊りなどがあります。

イチャルパ(慰霊祭)やお祭、何かの行事の時、最後の締めくくりには、ポロリムセという踊りを踊ります。ポロは「大きい」という意味で、直訳すると「大きい踊り」となり、これはみんなが大きな輪になって踊る踊りです。

アイヌの歌や踊りは、もともとは家庭または村の集まりなどで、神々や先祖に見て楽しんでもらうため、また、みんなで楽しむために行われてきた素朴なものです。

様似では1965(昭和40)年以降、北海道ウタリ協会様似支部の活動の中で、イチャルパなどの支部の集まりの中で踊ったり、会員が集まって練習をしていました。

そのような中で、伝承者の高齢化によって民族文化の継承が危ぶまれ、1983(昭和58)年、北海道ウタリ協会様似支部の中に民族文化保存部が結成され、古式舞踊などの民族文化の保存・伝承活動に組織的に取り組むことになりました(その後「様似民族文化保存会」に改組)。1994(平成6)年には国の重要無形民俗文化財の保持団体として認定され、現在に至っています。現在も各地で舞踊の公演を行い、祖先から伝わる歌や踊りを披露し、普及に努めています。



鶴の踊り

例文

1 クアニ クオマン。
 kuani ku=oman.
 私 私・行く (私は行く。)

2 クアニ ポロンノ クアブカシ。
 kuani poronno ku=apkas.
 私 たくさん 私・歩く (私はたくさん歩く。)

単語

アイヌ語	日本語訳
アブカシ apkas	歩く。
オマン oman	行く。
ク ku=	私が。
クアニ kuani	私。アイヌ語では特に私・僕・俺などの言い分けはありません。沙流・鶴川・千歳などではカニと言います。
ポロンノ poronno	たくさん。

言葉の解説

レッスン7と8で「私が／私は」の意味の言葉(人称接辞)「ク」を勉強しましたが、この「ク」とそのあとにくっついている言葉(名詞または動詞)を切り離すことはできません。

この課で勉強する「クアニ」は、単独で使える「私」を意味する単語(人称代名詞)で、「ク」とは違う使い方をする言葉です。

「私は行く」ならば単に「クオマン」でもいいのですが、文章の最初に「クアニ」をつけると「私が」という意味が少し強調されます。日本語に訳するとその違いをはっきりと分けることができないので分かりづらいかもしれませんが、この「クアニ」はいろいろな場面で使うので例文を何度も見て感覚をつかむようにしてください。

また文章のはじめに「クアニ」があっても最後の動詞には「ク」がつかないといけません。日本語の感覚だと繰り返して変に思えるかもしれませんが、アイヌ語ではこういう言い方になる決まりがあります。以下の例を比べてみてください。

- ・私は行く。
 - クアニ クオマン。
 - × クアニ オマン。
 - クオマン。
- ・私はたくさん歩く。
 - クアニ ポロンノ クアブカシ。
 - × ク ポロンノ アブカシ。
 - × クアニ ポロンノ アブカシ。
 - ポロンノ クアブカシ。

しかし、この「クアニ」はなくても文章の意味はほとんど同じですし、むしろ「クアニ」を使わずに言うことも多いようですが、「クアニ」は「私が」という意味を強める役割があります。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 私はたくさん遊ぶ。()()()。

- シノツ sinot 遊ぶ
- ポロンノ poronno たくさん
- クアニ kuani 私
- ク ku= 私が

2 私はとても疲れた。()()()。

- ク ku= 私が
- シンキ sinki 疲れる
- ソンノ sonno とても
- クアニ kuani 私

類似のアイヌ文化 — ヤマウ(冷たい汁) —

アイヌ料理は北海道内各地で独特の内容を持っていますが、今回紹介するヤマウはおそらく浦河・類似など、日高東部の地域独自のものと言っていいようです。

これは、昆布でだしをとって作ったおつゆを冷まし、ワカメと、叩いて柔らかくした棒ダラ(乾かしてカチカチになったスケソウダラ)を裂いて入れます。なお、魚はタラに限る必要はなく、カレイやサケも使います。仕上げにほんの少し油を入れます。かつてはタラの肝油などを使ったそうですが、現在はサラダ油も使います。そして最後に刻んだネギを入れます。

昆布のだしのきいたひやとしたおつゆに、魚の塩分やうまみが溶け込んでとてもおいしいものです。

アイヌ料理の汁物(オハウまたはルル)は、通常熱い状態で食べますが、このヤマウは冷たいことが特徴で、このような料理は他の地域では見られないようです。このヤマウという名前は「ヤム オハウ(冷たい汁)」が縮まったものだとされています。

このヤマウは暑い時に食べるとおいしいものですが、夏にだけ食べるものではなかったようです。冬に表面に氷が張ったものを食べるのもおいしいものだったとお年寄りの方は言っています。

類似独自のアイヌ料理、ヤマウを機会があればぜひとも味わってください。

例文

1 エアニ チェブ エコイキ。
 eani cep e=koyki.
 あなた 魚 あなた・とる (あなたは魚をとる。)

2 エアニ アナク アナウンサー エネ。
 eani anak ANOUNCER e=ne.
 あなた は アナウンサー あなた・だ
 (あなたはアナウンサーだ。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アナウンサー	ANOUNCER	アナウンサー。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
アナク	anak	～は。
エ	e=	あなたが。
エアニ	eani	あなた、お前。
コイキ	koyki	～をとる。「いじめる」「責める」という意味もあります。
チェブ	cep	魚。
ネ	ne	～だ、～である。

言葉の解説

この課ではレッスン17～19に習った「エ」に相当する「あなた」の意味の言葉、「エアニ」の使い方について勉強します。「エアニ」はレッスン20・21で習った「クアニ」の仲間、単独で使える「あなた」「お前」の意味の単語です。
 「クアニ」同様、「～する」の部分の「エ」を抜かさないように気をつけてください。例文1ならば「エアニ チェブ コイキ」と言ってはだめです。最後の「コイキ」が「エコイキ」にならなければなりません。
 これも「クアニ」同様、慣れるまでちょっと難しいかもしれません。文章の最後の言葉に「エ」をつけるのを忘れないでください。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 あなたはビールを飲む。()()()。
 ビール BEER ビール
 ク ku 飲む
 エ e= あなたが
 エアニ eani あなた

2 お前は男の子だ。()()()()。
 エアニ eani お前
 ネ ne ～だ
 アナクネ anakne ～は
 ヘカチ hekaci 男の子、少年
 エ e= お前が

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

類似のアイヌ文化 — アベカムイ(火の神) —

前回触れたように、さまざまなカムイがありますが、特にアベカムイ(火の神)は大事な神です。寒い冬、人間が生き延びるため暖をとれるのも、食べ物を煮炊きすることができるのもアベカムイのおかげです。また、さまざまなカムイに祈りを捧げるにあたって、まずアベカムイに言つてを頼み、お酒や供物を人間の代わりに神々のところに届けてくれるようアベカムイにお願いします。たとえば、イチャルパ(慰霊祭)の時もまずアベカムイに、お神酒や供物が先祖のところに届くように取り計らってくれるよう祈りを捧げます。

このように、アベカムイは非常に大事なカムイで、昔の人は炉の火は絶やさないようにし、何かあるたびにアベカムイにお願いや感謝の祈りを捧げていました。また、昔の人はご馳走が手に入った時は、まず最初にアベカムイに少し頂いてもらってから食べたものだと思います。

現在50代以上の人なら、子どもの頃、親の世代の人たちが、お酒を飲む前に、ストーブの火などに一滴か二滴でも少しあげてから飲む光景を見たことがあると言います。

1. クアニ アチク ラジク クヌ クアニ anak RADIO ku=nu
 2. クアニ アチク サッポロク クエククサトポロワクク
 練習問題の解答 172521

例文

- 1 ルヤンペ アシ ワ ル テイネ
 ruyanpe as wa ru teyne.
 雨 降る ~して 道 濡れる。
 (雨が降って道が濡れる/濡れた。)
-
- 2 ヘリコプター エク ワ ヘカッタル ウウエカルパ。
 HELICOPTER ek wa hekattar uwekarpa.
 ヘリコプター 来る ~して 子供たち 集まる
 (ヘリコプターが来て、子供たちが集まった。)

単語

アイヌ語	日本語訳
アシ as	降る。
ウウエカルパ uwekarpa	集まる
エク ek	来る。
テイネ teyne	濡れる。じめじめする。札幌の「手稲」はここから来ています。
ヘカッタル hekattar	子供たち。
ヘリコプター HELICOPTER	ヘリコプター。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
ル ru	道。
ルヤンペ ruyanpe	雨。
ワ wa	~して。

言葉の解説

今回は文章をつなげる「ワ」という言葉を勉強します。
 たとえば「雨が降る(ルヤンペ アシ)」と「道が濡れる(ル テイネ)」の2つの文章をつないで「雨が降って道が濡れる」という文章にするとします。そういう時、この2つの文章を「ワ」でつないで「ルヤンペ アシ ワ ル テイネ」とします。
 また、この「ワ」は、シ・ム(n・m)のあとに来ると発音が変わってマになることがよくあります。
 例 サク アン マ シリセセク。 夏になって暑い。
 メアン マ クテケ ヤム。 寒くて私の手が冷たい。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 風が吹いて波が強い。()()()()()。
 ワ wa ~して
 リリ rir 波
 アシ as 吹く
 レラ rera 風
 ユブケ yupke 強い
- 2 父が怒って娘が泣いた。()()()()()。
 チシ cis 泣く
 ワ wa ~して
 アチャ aca 父
 マツネポ matnepo 娘
 イルシカ iruska 怒る

類似のアイヌ文化 — イヨマンテ(神の送り儀礼) —

自然界にいるさまざまな動物の多くはカムイ、神なのですが、その中でクマは強い力を持つため、非常に大事な神様と考えられ、キムンカムイ(山の神)と呼ばれ、単にカムイと言えば、クマを指すこともあります。

現在でも、類似の山々にはヒグマが生息していますが、人里におりてくることはめったにありません。

アイヌの儀礼の中で、イヨマンテがよく知られていますが、これは日本語で「クマ送り」と言われます。イヨマンテという言葉を分解するとイ・オマンテ、「それ(=神様)・送る」という意味で、オマンテをさらに分解するとオマン・テ、「行く・させる」となります。

イヨマンテは、狩猟で生捕りにした仔グマを1年あるいは2年ほど養育した後、その魂を神の国へ送り返す儀礼です。この「魂を送る」という儀礼はクマに限ったものではなく、シマフクロウやキツネ、タヌキなど、さまざまな動物に対しても行われます。また、山でクマなどをとった時もその魂を神の国へ送り帰す儀礼を行います。こちらはイヨマンテとは言わず、カムイホブニレ(ホブニレも「送る」と訳せますが、「飛び立たせる」というような意味です)と言います。

イヨマンテは「野蛮な習慣」だということで、かつて道庁から禁止の通達が出されていますが、1970年代以降も各地で何度か行われています。

なお、岡本ゆみさん(1896年生まれ)の記憶によると、類似でイヨマンテが行われたのは大正時代あたりが最後のようなようです。はっきりした記録では1925(大正14)年にムジナ(タヌキ)送りを行われたということです。

しかし戦後も、岡本総吉さんなど、クマ撃ちを生業にしている人はクマをとったときちんと送る儀礼を行っていたそうです。

1. イフニル エフ eani! BEER e=ku
 2. イフニル エフ eani! anake hekaci e=ne

例文

1 フチ ヘンネ モコル
 huci henne mokor.
 おばあさん ~ない 眠る。 (おばあさんは眠らない)

2 タパンペ シタ ヘンネ ネ。
 tapanpe sita henne ne.
 これ 犬 ~ない である (これは犬ではない。)

単語

アイヌ語		日本語訳
シタ	sita	犬。
タパンペ	tapanpe	これ。
ネ	ne	~だ、~である。
フチ	huci	おばあさん。
ヘンネ	henne	~ない。
モコル	mokor	眠る。

言葉の解説

「~しない」「~ではない」という時、「ヘンネ」という言葉を使います。これは動作または状態を否定する言葉です。

たとえばオマンは「行く」という意味ですが、この「オマン」の前に「ヘンネ」をつけて、「ヘンネ オマン」とすると「行かない」という意味になります。言葉の順番は「しない 行く」となるので、日本語とは順番が違います。これは日本語とアイヌ語の違いなので気をつけてください。

漢字で「不」という文字がありますが、たとえば「必要」という言葉の頭に「不」をつけると「不必要」となります。「不必要」は「必要」の反対ですから、「必要ない」「要らない」という意味になります。それに近いかもしれません。その他「合格／不合格」「可能／不可能」「完全／不完全」など「不」がつくことで意味が反対になります。

それと同じように「ピリカ(いい、きれい)」の前に「ヘンネ」がつくと「ヘンネ ピリカ」、「よくない」「きれいではない」という意味になります。「ヘンネ アプカシ」でしたら「歩かない」、「ヘンネ エク」でしたら「来ない」という意味になります。

また、「私が行く」は「クオマン」なので、「ヘンネ クオマン」だと「私は行かない」という意味になります。

また、「ネ」は「~だ、である」という意味ですが「ヘンネ ネ」は、「~ではない」という意味になりよく使われる表現です。たとえば、「チェブ ヘンネ ネ」だと「魚ではない」、「ワッカ ヘンネ ネ」だと「水ではない」という意味になります。

なお、北海道の多くの地方では「~しない」、「~でない」という時、「ソモ」という言葉を使いますが、様似ではこの「ソモ」を使わず「ヘンネ」を使うのが普通のようなようです。この「ヘンネ」は静内・浦河などでも使われる言葉のようです。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 私の父は食事しない。()()()()()。
 イペ ipe 食事する
 ク ku= 私
 アチャ aca 父
 ヘンネ henne ~しない
 コル kor 持つ
- 2 あなたは男ではない。()()()()()()。
 エ e= あなたが
 ネ ne ~である
 エアニ eani あなた
 アナク anak ~は
 オツカイ okkay 男
 ヘンネ henne ~しない

様似のアイヌ文化 — ヤイラブ(英雄叙事詩) —

アイヌの口伝の物語、口承文芸にはいろいろな種類がありますが、その中に英雄叙事詩があります。英雄叙事詩は日高西部・胆振では「ユカル(=ユカラ)」、道東では「サコルペ(=サコロペ)」と呼ばれ、孤児の少年が主人公の物語がよく知られています。様似ではこの英雄叙事詩を「ヤイラブ」と言い、オタストウンクルという名前の少年が主人公となる物語が伝わっています。

オタストウンクルとは、分解すると、オタスツ・ウン・クル「オタスツ・にいる・人」となります。このオタスツというのはアイヌの物語によく出てくる地名なのですが、実際にそれがどこなのかは分かりません。小樽、あるいは浜益方面だとも言われています。

このヤイラブはほかの地域と同じく、木の棒などで炉縁を叩きながらリズムをとり、節をつけて歌うように語る物語です。岡本ゆみさんによると、春と秋、山の神や海の神に豊猟・豊漁を祈って行った祭りが終わったあとや、みんなで集まって酒盛りをする時などに語られたようで、神様に聞いてもらおうと同時にみんなで楽しむ娯楽の要素もあったようです。かつて、様似には、岡本チタノさんという、ヤイラブを語るのがじょうずなエカシ(男性の長老)がいて、ヤイラブエカシというあだ名だったそうです。ヤイラブエカシは、隣の浦河にも行ってヤイラブを語ったりしてその名前が知られていました。

ほかの地方のユカルやサコルペについては資料が比較的多く残されていますが、様似のヤイラブについては記録が非常に少ないのが悔やまれます。ただ、まとまった記録としては、岡本ゆみさんによって語られたヤイラブが録音されています。自分の生まれた来歴も分からず海を漂っていたオタストウンクルが、実の姉に出会い、実は、自分の親がシラルボンチャチャ(岩の小さな爺さん)という化け物に殺されたのだということを知り、仇をとるといふ話です。

このヤイラブについてはあらためて詳しく触れたいと思います。

アシ	as	自動詞	(雨や雪が)降る。 L23
アチャ	aca	名詞	お父さん、父。 L14
アナク	anak	副助詞	～は。 L21、L22
アナクネ	anakne	副助詞	～は。 L21
アフン	ahun	自動詞	入る。 L14
アプカシ	apkas	自動詞	歩く。 L20
イエ	ye	他動詞	～を言う。(歌など)を歌う。 L19
ウエカルパ	uwekarpa	自動詞	集まる。 L23
ウエンクル	wenkur	名詞	貧乏人。 L16
ウポポ	upopo	名詞	歌。 L19
ウンマ	umma	名詞	馬。 L21
エ	e=	人称接辞	あなたの、あなたが。 L17、L18、L19、L22
エアニ	eani	代名詞	あなた、お前。 L22
エカシ	ekasi	名詞	おじいさん。 L16
エク	ek	自動詞	来る。 L15、L23、L24、L25
エトウ	etu	名詞	鼻。 L17
エムコタ	emkota	副詞	早く。 L25
エン	en	格助詞	～に。 L14
オ	o	他動詞	～に乗る。 L21
オシケ	oske	位置名詞	中。 L14
オマン	oman	自動詞	行く。 L14、L20、L24、L25
オンネ	onne	自動詞	年老いた。 L16
カ	ka	位置名詞	上。 L15
ク	ku=	人称接辞	私が。 L14、L15、L16、L17、L20、L21、L24
クアニ	kuani	代名詞	私。 L20、L21
コル	kor	他動詞	～を持つ。～の。 L14、L18、L19
コイキ	koyki	他動詞	～をとる。 L22
シタ	sita	名詞	犬。 L26
ソンノ	sonno	副詞	とても、本当に。 L18
タパンペ	tapanpe	代名詞	これ。 L26
チェブ	cep	名詞	魚。 L22
チカブ	cikap	名詞	鳥。 L14
チセ	cise	名詞	家。 L17
テイネ	teyne	自動詞	濡れる。じめじめする。 L23
トゥイ	tuy	自動詞	落ちる。 L15
トノト	tonoto	名詞	酒。 L24
ニ	ni	名詞	木。 L15
ヌカル	nukar	他動詞	～を見る。 L17、L21
ヌブルベツ	Nupurpet	固有名詞	登別。 L15
ネ	ne	デアル動詞	～だ、～である。 L16、L22、L26
ハボ	hapo	名詞	お母さん、母。 L18
ピリカ	pirka	自動詞	いい、きれい。 L18、L19
フチ	huci	名詞	おばあさん。 L26

ヘカッタル	hekattar	名詞	子供たち。 L23
ベツ	pet	名詞	川。 L14
ヘンネ	henne	副詞	～ない。 L26
ホク	hok	他動詞	～を買う。 L24
ホプニ	hopuni	自動詞	飛ぶ、飛び立つ。起きる。 L24
ポロ	poro	自動詞	大きい。 L17、L21
ポロンノ	poronno	副詞	たくさん。 L18、L20
モコル	mokor	自動詞	眠る。 L26
モンライケ	monrayke	自動詞	働く。 L18
ル	ru	名詞	道。 L23
ルヤンペ	ruyanpe	名詞	雨。 L23
ワ ¹	wa	格助詞	～から。 L15
ワ ²	wa	接続助詞	～して。 L23、L24、L25
ワッカタ	wakkata	自動詞	水汲みをする。 L25

外来語

アナウンサー	ANOUNCER	名詞	アナウンサー。 L22
インド	INDO	名詞	インド。 L14
カメラ	KAMERA	名詞	カメラ。 L18
車	KURUMA	名詞	車。 L19
コンドル	CONDOR	名詞	コンドル。 L24
テレビ	TEREBI	名詞	テレビ。 L21
ヘリコプター	HELICOPTER	名詞	ヘリコプター。 L23
りんご	RINGO	名詞	りんご。 L15

1. クル アチャ アニエ イニエ イニエ イニエ イニエ イニエ イニエ
2. エアニ アチャ オツカ イニエ イニエ イニエ イニエ イニエ e=ne